

令和 3 年 6 月 10 日現在

機関番号：34101

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2020

課題番号：17K03077

研究課題名（和文）中世伊勢神宮に関する三重県外所在古文書の網羅的研究

研究課題名（英文）A Comprehensive Study of Medieval Documents Related to the Ise Shrine Complex and Held Outside of Mie Prefecture

研究代表者

岡野 友彦（Okano, Tomohiko）

皇學館大学・文学部・教授

研究者番号：40278411

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000 円

研究成果の概要（和文）：本科研では、三重県外に散在する中世伊勢神宮関係古文書を可能な限り収集・翻刻した。具体的には三重県史編さん室が入手しながら『三重県史』で未翻刻となった伊勢神宮関係古文書をデータ入力するとともに、各種の中世史料集を当たり直し、また全国各地に出張して、関係古文書の複写を入手した。但し、当初予定していた「中世伊勢神宮関係三重県外所在古文書」については、関係古文書の量が予想していたよりはるかに多かったことと、最終年度の調査が新型コロナウイルス感染拡大により不可能となったことにより、完成するに至らなかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本科研は、神宮領荘園の広域的展開や神仏習合思想の広がり、伊勢御師の全国的布教活動などにより、関連史料が全国各地に分散して伝えられることとなった中世伊勢神宮関連古文書のデータを網羅的に収集することにより、中世伊勢神宮に関する研究をより発展させることをその学術的意義とした。残念ながら当初予定した史料集の刊行には至らなかったが、データはほぼ収集できたので、可能な限り速やかに翻刻して、学術的・社会的要請にお応えしたい。

研究成果の概要（英文）：In this research, we collected and transcribed as many medieval documents as possible that are related to the Ise Shrine Complex (Ise Jingu) and held outside of Mie Prefecture. Specifically, we input data on documents related to Ise Jingu that were obtained by the Mie Prefectural History Editing Office but not transcribed and included in the Mie Prefectural History, reviewed various collections of medieval historical materials, and traveled throughout Japan to obtain copies of related documents. However, regarding our original plan of “A Comprehensive Study of Medieval Documents Related to the Ise Shrine Complex and Held Outside of Mie Prefecture,” we could not complete it because the volume of related documents is much larger than we had anticipated, and the survey of materials in the final year of the project became impossible due to the spread of COVID-19.

研究分野：日本中世史

キーワード：古文書学 宗教史 史料研究

## 1. 研究開始当初の背景

中世の伊勢神宮および伊勢信仰・伊勢神道に関する研究は、大西源一『大神宮史要』(神宮司庁、1959年)、久保田収『中世神道の研究』(神道史学会、1959年)にはじまり、梅田義彦『伊勢神宮の史的研究』(雄山閣、1973年)、萩原龍夫編『伊勢信仰』(雄山閣、1985年)、小島鉦作『伊勢神宮史の研究』(吉川弘文館、1985年)、西山克『道者と地下人 中世末期の伊勢』(吉川弘文館、1987年)らによってその基礎が築かれた。その後、高橋美由紀『伊勢神道の成立と展開』(大明堂、1994年)、鎌田純一『中世伊勢神道の研究』(続群書類従完成会、1998年)、牟禮仁『中世神道説形成論考』(皇學館大学出版部、2000年)、平泉隆房『中世伊勢神宮史の研究』(吉川弘文館、2006年)、勝山清次『中世伊勢神宮成立史の研究』(塙書房、2009年)、白山芳太郎『神道史の発生と伊勢神道』(国書刊行会、2010年)、伊藤聡『中世天照大神信仰の研究』(法蔵館、2011年)など、近年特に長足の進歩を遂げつつある分野の一つと言える。

かかるめざましい研究の進展を支えた史料集としては、早く戦前に『大神宮叢書』や『神宮遷宮記』があり、戦後になると『神道大系神宮編』『神宮古典籍影印叢刊』『神宮御師資料』、さらには『三重県史』資料編が刊行されてきた。上述した諸研究の多くが、これら史料集の恩恵に浴してきたことは言うまでもないが、中世の伊勢神宮は、神宮領荘園の広域的展開や神仏習合思想の広がり、伊勢御師の広範な布教活動などによって、その関連史料が三重県外各地に残存しているという特徴があり、神宮文庫所蔵文書をはじめとする三重県内所在史料を中心とした上記の諸史料集のみでは、その全体像を把握することが難しいという課題があった。

## 2. 研究の目的

本研究では上記の学術的背景を踏まえ、三重県外各地に散在する中世伊勢神宮関係史料の内、特に古文書のデータを可能な限り収集し、これを日本中世史研究者共有の財産とすることで、上述した諸研究の欠を補うとともに、その更なる飛躍を促すことを目的とした。

## 3. 研究の方法

具体的には、まず三重県史編さん班が作成した三重県関係県外所在古文書の一覧データを手入れ後、それを三重県史編さん室が保管する紙媒体の文書ファイルと照合し、『三重県史』資料編中世3(県外史料)で不採用となった神宮関係古文書を抽出した。その上で、それらの古文書群を、三重県史編さん室に既に紙媒体データがあり、再調査の必要のない古文書2215点(A群)、三重県史編さん室に紙媒体データがなく、調査・複写・翻刻の必要がある古文書499点(B群)、そして一覧データ化されていない未確認史料(C群)という3つの古文書群に分類した。

その上で、まずA群の古文書については、紙媒体データをPDF化した上で、当初は学生アルバイトを使い、最後は外部の業者に発注する形で、これをデータ入力した。次いでB群・C群の古文書については、国立公文書館・東京大学史料編纂所・京都大学・京都府立京都学歴彩館・宮内庁書陵部・石川武美記念図書館成實堂文庫・国立歴史民俗博物館・天理大学附属図書館などに出張し、それぞれ関係史料の調査と複写の入手を行うとともに、画像データを入手できたものから適宜、翻刻・入力作業を行った。併せて一覧データからの抽出漏れ・重複文書などのチェックを行うとともに、『鎌倉遺文』『南北朝遺文』『戦国遺文』などといった各種活字史料集から、改めて神宮に關係する史料の「まくり作業」を行った。

## 4. 研究成果

上記の作業の結果、まずA群の古文書については、これをすべてワードデータとして入力を終えることができた。それは下記の24都府県等に所在する総計2215点の古文書である。

- ・**山形県** 『歴代古案』所収文書・上杉家文書・中条家文書
- ・**福島県** 小倉文書
- ・**茨城県** 税所文書・臼田文書・鹿島神宮文書・加茂部文書・護国院文書・大伴文書・吉田神社文書・吉田薬王院文書
- ・**群馬県** 南部文書
- ・**千葉県** 田中穰氏旧蔵典籍古文書・広橋家旧蔵記録文書典籍類・「兼仲卿記」紙背文書・「守光公記」紙背文書・『守光公記』所収文書・『兼宣卿記』所収文書
- ・**東京都** 壬生家文書・『壬生家四巻之日記』所収文書・荻野研究室収集文書・喜連川文書・成實堂文庫所蔵文書・九条家文書・『祭主職之事』所収文書・『続左丞抄』所収文書・『続左丞抄』紙背文書・『歴代残闕日記』所収文書・『神宮旧記』所収文書・蜷川家文書・楓軒文書纂・足利時代古文書・『師郷記』紙背文書・佐竹古文書・賜廬文庫文書・岡田大舎人文書・中央大学図書館所蔵文書・『日記雑録』所収文書・『実隆公記』所収文書・『実隆公記』紙背文書・『言継卿記』所

収文書・『言継卿記』紙背文書・島津家文書・本郷文書・益田家文書・『柳原記録』所収文書・『柳原資定記』所収文書・吉田文書・『口宣論旨院宣御教書案』所収文書・二階堂文書・尊經閣所蔵『編年文書』・美吉文書・駒月文書・『実躬卿記』紙背文書・『薩戒記』紙背文書・『薩戒記』所収文書・『蔭涼軒日録』所収文書・『阿波国徴古雜抄』・『伊佐早謙採集文書』十三所収文書・『稲葉家譜』所収文書・記録御用所本『古文書』所収文書・『御拳状并御書等執筆引付』所収文書・『御内書引付』所収文書・『建内記』所収文書・『時元記』所収文書・『中御門家記』所収文書・『宣教卿記』所収文書・『康富記』所収文書・『守光公記』所収文書・小早川家文書・『古証文』所収文書・『御状引付』所収文書・『武州文書』所収文書・『京都御所東山御文庫記録』所収文書  
 ・**神奈川県** 円覚寺文書・覚園寺文書・金沢文庫文書・帰源院文書・黄梅院文書・極楽寺文書・佐々木信綱氏所蔵文書・宝珠庵所蔵文書・浄光明寺文書・最明寺文書・鶴岡八幡宮文書  
 ・**新潟県** 村田信義氏所蔵文書・大見安田氏文書・善照寺文書  
 ・**石川県** 白山比咩神社文書・石清水八幡宮文書  
 ・**福井県** 三田村土郎家文書  
 ・**長野県** 信濃国道者之御袂くばり日記  
 ・**静岡県** 大福寺文書・摩訶耶寺文書・三嶋神社文書・矢田部文書  
 ・**岐阜県** 春日神社文書  
 ・**愛知県** 西尾市岩瀬文庫文書・津島神社文書・真継文書・妙興寺文書  
 ・**京都府** 石清水八幡宮文書・教王護国寺文書・京都御所東山御文庫文書・天龍寺文書・勤修寺家文書・醍醐寺文書・東寺百合文書・近衛家文書・臨川寺文書・神護寺文書・壬生文書・菊亭文書・狩野亨吉氏蒐集文書・西山地蔵院文書・平松文書・高山寺文書・大徳寺文書・東福寺文書・徳大寺文書・南禅寺文書・宝鏡寺文書・八坂神社文書・八坂神社記録・建内文書・山城随心院文書・冷泉為人氏所蔵文書・鹿王院文書  
 ・**大阪府** 大阪城天守閣所蔵文書  
 ・**奈良県** 春日大社文書・西大寺文書・西大寺伊勢御正体厨子納入文書・伊勢内宮勸進帳・東大寺文書・覚遍本明本抄巻一裏文書・大東家文書・中村直勝博士蒐集古文書・福智院家文書・『大館常興日記』所収文書  
 ・**和歌山県** 高野山文書・金剛峯寺文書・高野山正智院文書・高野山金剛三昧院文書・高野山寂靜院文書・湯橋文書・米良文書・且来八幡神社文書・歡喜寺文書・『普賢延命法』紙背文書・向井家文書・野田家文書・『紀伊続風土記』所収文書  
 ・**島根県** 藤波家旧蔵文書  
 ・**広島県** 野坂文書・『政所賦銘引付』所収文書・『御前落居記録』所収文書  
 ・**山口県** 大内家壁書・長府毛利家文書・『萩藩閩閩録』所収文書・萬代家文書・住吉神社文書・毛利家文書  
 ・**高知県** 土佐国蠹簡集  
 ・**福岡県** 御内書符案  
 ・**鹿児島県** 本田家記文書及系譜  
 ・**その他(所在不明など)** 辻村豊徳氏所蔵文書・『天正三年乙亥正月以来御神事日記』所収文書・『玉藻』所収文書・『園太暦』所収文書・『吉統記』所収文書・『公衡公記別記昭訓門院御産愚記』所収文書・『三長記』所収文書・『経俊卿記』所収文書・『民経記』所収文書・『民経記』紙背文書・『吉部秘訓抄』五所収文書・『黄薇古簡集』所収文書・『古蹟文徴』所収文書・『古筆手鑑』所収文書・『古文書雜纂』所収文書・『請符集』所収文書・『三長記』所収文書・『時元記』所収文書・『小槻時元日記』(文亀二年記)所収文書・『宣胤卿記』所収文書・『晴富宿祢記』所収文書・『師守記』所収文書・『師守記』紙背文書・『平戸記』所収文書・『妙槐記』所収文書・『元長卿記』所収文書・『民経記』所収文書・『民経記』紙背文書・『春日社記録』所収文書・『砂巖』所収文書・長門国分寺文書・『吉田家日次記』十五紙背文書・『思文閣古書資料目録』125所収文書・昭和五十六年弘文荘待賈文書・『吾妻鏡』所収文書・播磨井関文書・伏見宮家本一宮社関係文書案

またB群・C群の古文書については、上述した各所蔵機関にお伺いし、複写の入手を行うとともに、画像データを入手できたものから適宜、翻刻・入力作業を行っていったが、入手できた中世伊勢神宮関係古文書の未翻刻画像データが当初の予想をはるかに上回る量であったこと、データ入力や史料蒐集の出張などを主に担当していた有力な大学院生1名が就職したこと、さらに令和元年度末以降の新型コロナウイルス感染拡大により首都圏への出張を断念せざるを得なかったことなどにより、これらの調査とデータ入力は未完成の状態で行われざるを得なかった。

本来であれば、上記A群の入力済み古文書だけでも科研報告書のような形で公開すべきところであるが、B群・C群の調査が未完成な状態であることと、そのことと絡んで十分な重複チェックや校正が行えていないこと、さらには各所蔵者に公開の了解を得る余裕がないことなどから、その公開は見送らざるを得なかった。残りの調査と翻刻は、特段の研究費を必要とするものではないため、大学の個人研究費や大学院の授業などを通じ、今後数年かけて収集と翻刻作業を続けていくこととしたい。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 4件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 多田實道	4. 巻 20
2. 論文標題 「大神宮禰宜延平日記」について	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 古代史の研究	6. 最初と最後の頁 15-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 多田實道	4. 巻 85
2. 論文標題 真盛上人の伊勢信仰について 天照大神男体観を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本仏教学会年報	6. 最初と最後の頁 169-192
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 多田實道	4. 巻 66
2. 論文標題 太神宮御祈禱所遠江国浜名神戸大福寺について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東海仏教	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桐田貴史	4. 巻 90
2. 論文標題 『凶徒御退治御告文』に見る足利義満の神祇祈禱	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 古文書研究	6. 最初と最後の頁 43-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 桐田貴史
2. 発表標題 吉田兼俱と室町幕府
3. 学会等名 中世史研究会例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 桐田貴史
2. 発表標題 吉田兼俱の政治的位置について
3. 学会等名 大阪歴史学会中世史部会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Okano Tomohiko
2. 発表標題 The formation of Ise Shinto
3. 学会等名 Communities at the crossroads / Ise and Canterbury
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Christopher Mayo
2. 発表標題 Crowdfunding and Sacred Sites in the Sixteenth Century
3. 学会等名 Communities at the crossroads / Ise and Canterbury
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 桐田貴史
2. 発表標題 足利義満をめぐる神祇祈禱の再検討 天理図書館所蔵「凶徒御退治御告文」の分析を中心に
3. 学会等名 日本古文書学会大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 勝山清次, 飯田良一, 伊藤俊一, 伊藤裕偉, 稲本紀昭, 太田光俊, 岡野友彦, 小原嘉記, 駒田利治, 林譲, 深津睦夫	4. 発行年 2020年
2. 出版社 三重県	5. 総ページ数 995
3. 書名 三重県史通史編中世	

1. 著者名 多田實道	4. 発行年 2019年
2. 出版社 弘文堂	5. 総ページ数 382
3. 書名 伊勢神宮と仏教 習合と隔離の八百年史	

1. 著者名 橋本雅之, クリストファー・メイヨー, 中松豊, 渡邊毅, 小林郁, 齋藤平	4. 発行年 2020年
2. 出版社 皇學館大学出版部	5. 総ページ数 141
3. 書名 さまざまな資源から見た伊勢神宮の魅力	

1. 著者名 松園斉・近藤好和編著，岡野友彦共同執筆	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 440
3. 書名 中世日記の世界	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	多田 誠(多田實道)  (Tada Makoto)  (00440834)	皇學館大学・文学部・教授    (34101)	
研究分担者	小林 郁  (Kobayashi Kaoru)  (90779654)	皇學館大学・研究開発推進センター・助手    (34101)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------